

## はじめに

古河市の自然環境は、全国でも最大規模のヨシ原がつくりだす美しい自然景観とともに、希少価値の高い豊かな自然環境が残されています。1955 (昭和30) 年から工業立地が進み、2018 (平成30) 年度では古河市部門別二酸化炭素排出量の構成比のうち、産業部門の割合が増加しているなど、本市の特性が現れています。

また、本市では環境保全に関する「古河市環境基本 計画」を 2011 (平成 23) 年に策定し、中間年にあた る 2016 (平成 28) 年 3 月に見直しを行い、皆様と協



働し、計画的に施策を推進してまいりました。しかし、近年地球温暖化やごみ処理問題などの環境問題を取り巻く状況は深刻化し、私たちのライフスタイルについても大きな変化が求められています。

このような状況を受け、本市では「古河市生活環境の保全及び創造に関する基本条例」に基づき脱炭素で循環型社会の実現をめざす基本的な計画として、2022 (令和 4) 年度から 10 年間の計画となる「第 2 次古河市環境基本計画」を策定いたしました。

今後におきましては、目指す環境像である「人と自然が共生し、豊かな環境・ 歴史を未来につなぐまち古河」を具現化し、市民、事業者、行政が一体となり取り組むことにより、次の世代へ引き継ぐべき施策を実施してまいります。

本計画の策定にあたりまして、ご審議、ご尽力いただきました古河市環境審議会委員、古河市環境市民委員会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見、ご提案をいただきました多くの皆様に心から感謝を申し上げますとともに、今後の計画の推進により一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月

古河市長 針 谷 力

## 目 次

第	章	基本的事項 1
1		画策定の背景・目的1
2	計	画の位置づけ2
3	計	画対象期間3
4	計	画対象地域
5	計	画対象主体 4
6		画対象環境 4
7	計	画の構成4
第2	2 章	<b>第1次計画策定後の社会情勢の変化</b> 5
1	国	内外の動向5
	(1)	持続不能な世界から持続可能な世界への「変革」5
	(2)	持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals) 5
	(3)	パリ協定(産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃未満に)6
	(4)	COP26 (第 26 回気候変動枠組条約締約国会議)6
		プラスチックごみ問題(プラスチック資源循環戦略)6
		新型コロナウイルス感染症の影響7
		地域循環共生圏
_		2050 年カーボンニュートラルと新たな 2030 年目標
2	次	城県の動向 8
第:	3 章	古河市の環境の特性と課題9
1	環	境の特性9
	(1)	古河市の位置・沿革9
	(2)	気 象 10
	(3)	土地利用 10
	(4)	人 口11
		産業構造11
		公共交通の利用状況12
2	市	域の生活環境13
		大気質
		水質
		騒音
^		廃棄物
- 3	_ mī	域の自然環境

	(1) 自然環境	15
	(2) 動植物・生態系	15
4	アンケート調査結果	17
	(1)概要	17
	(2) 調査結果	17
5	ヒアリング調査結果	20
	(1)概要	20
	(2) 調査結果	20
6	課題抽出	22
第 4	4 章 施策の進捗状況	23
1	17 FF - AV 14 16 A	23
2	これまでの評価	24
		_
第 5	う <mark>章</mark> 計画の目標	26
1	望ましい環境像	26
2	望ましい環境像実現のための基本方針と計画の視点	27
3	第 2 次古河市環境基本計画 施策体系図	29
		_
第6	う章 計画の推進及び進捗管理	30
1	具体的な施策の展開	30
2	基本目標と施策	32
	基本目標1【地球環境】身近な地域から地球にやさしいまち	33
	基本目標 2【自然環境】水やみどりと共生した自然豊かなまち	45
	基本目標 3【生活環境】活力と元気があふれる健やかなまち	58
	基本目標 4【快適環境】人と自然にやさしいうるおいのあるまち	67
	基本目標 5【環境保全に取り組むための基盤づくり】みんなで考え自ら動くまち	76
3	計画の進捗管理の基本的な考え方	82
	(1) 各主体の協働	82
	(2) 行政組織の構築	82
	(3) 事業者の環境配慮指針	83
4	計画の推進及び進捗管理体制	83
		_
咨判		84

本文中における「\*」印がある言葉については、「資料編」の「用語集」にて内容を説明しています。